

翔

若く日に
汝の思想を培え

若く日に
汝の体躯を養え

若く日に
汝の智慧を磨け

若く日に
汝の希望を重んじ

松岡 有次郎

第7号

(発行)
平成24年12月17日(月)
東海大学付属翔洋高等学校同窓会

魅力ある同窓会は、卒業生の力で！

東海大学付属翔洋高等学校 同窓会会長

林 芳久仁



翔洋高校同窓会は、「第一高校」「工業高校」「翔洋高校」の卒業生からなる全国でも珍しい同窓会として活動しています。

ただ、三校の高校名で卒業している事もあり、同一名の学校と異なり、卒業生の意識に、若干の差異が生じている事も事実です。

しかし、私達が学んだ建学の精神は、同一であり、それぞれの母校の思い出にも、共通している事が多いと思います。

学校の発展は、卒業生の皆様一人一人のご協力が不可欠です。その為にも、我々役員一同、皆様に参加しやすい、魅力ある同窓会にすべく、日々考え活動しております。

魅力ある同窓会を作る為、老若男女を問わず、学生時代の思い出を胸に、大学生及び社会人として、それぞれの立場で活躍されている皆様のお力を、是非ともお貸し願いたいと思います。

二十代・三十代の若い卒業生にとっても、魅力あるものにする為には、その年代の皆さんに、積極的に同窓会に参加して頂き、ご意見・ご要望を聴かせて頂くのが一番だと思います。是非、ご意見・ご要望を、事務局宛に、お

手紙やFAX等でお寄せ下さい。

次に、一年間の活動を報告させて頂きます。
二十四年一月、東海大学静岡地区新年会が、清水区マリンドームで開催され、当同窓会から多くの役員が出席しました。

三月二日、第十三期卒業生の同窓会入会式及び記念品贈呈。

当日、各クラブ活動の功労賞表彰も行いました。また、各クラスから今後の同窓会活動への連携を密にする為、クラス幹事を選出して頂きました。

六月十日、二年に一度の総会を、翔洋高校にて実施しました。

校長先生・教頭先生にも出席して頂き、元全日本バレーボール監督で、東海一高の教員でもありました、「斎藤勝先生」に講演をして頂きました。

当日は、バレーボールOB会を始め、他のクラブOB会にも参加して頂き、盛大に行われました。

講演後は、食堂にて懇親会を行い、互いの交流を深める事が出来ました。

七月二十一日、東海大学静岡地区園遊会が、三保文化ランド海洋博物館前で開催、同窓会も毎年参加し、チャリティー商品の販売をしています。

売店では、かき氷、ヨーヨーを販売し、多くの子供や大人の方々にも楽しんで頂きました。

八月五日、「清水港まつり」最終日、静岡市の要望もあり、翔洋同窓会神輿が祭りに参

加、東海大学海洋学部野球部の学生諸君にも応援を頂き、エスパルスドリームプラザで、午前十時から午後二時まで、多くの市民が見守る中、「東海健児」の勇ましさを認める事が出来ました。

十月二十日・二十一日、建学祭に、教室をお借りして、「同窓会コーナー」を開設し、同窓会の資料・写真等を展示、来場者やOBの方々を、同窓会役員が接待しました。

十月三十一日・十一月一日、現役高校生による6.6キロウオーキングでは、例年のように、中継点で「おしるこ」のサービスをし、宿泊地の大島体育館で激励の挨拶をし、ゴール地点の学校では、飲み物のサービスを行いました。

結びになりましたが、来春、一人でも多くの入学生を確保する為、同窓会としても、役員を中心に、中学生のお子さんを持つ知人に声をかけたり、中学校の部活動での優秀選手の発掘情報等を集める等、学校とも連携して活動していきます。

同窓生の皆様も、知人・親類等で、本校への入学を希望している方の情報提供を、是非お願いし、活動報告と致します。

母校として、認められるために

校長 高橋 信由



同窓会誌「翔」第7号の発刊に付きまして、心よりお祝いを申し上げます。全国で、いや世界で活躍する同窓生の皆様方に、

在校生と教職員を代表して賞賛と賛辞を送ります。
一高と工業高が一緒になり、翔洋高校となつて12年が経過しました。1999年に開校し

た頃は、「東海大翔洋」って何処の学校？何処にある？どんな学校？一高はどうなった？工業はどうなった？と、良く問われました。開校13年目で県内でもようやく、「東海大翔洋」は定着してきたように思います。しかし、まだ名前を聞いても知らない方がいます。私達は、野球やサッカーで、そしてラグビー、吹奏楽などで全国大会に出場し、「翔洋」の名前を、テレビで連呼してもらい、新聞に「翔洋」の名前がアップされ、認知されることを、卒業生諸兄に、「翔洋」が母校であることを、認めてもらう最大の手段だと思っております。

そんな部活動の現状をご紹介します。

現在、一高・工業時代から常勝の柔道部は男女団体でどちらかが全国大会に駒を進めていますが、上位入賞とまでは至っておりません。指導者が若返りましたので、全国の頂上を狙ってほしいものです。陸上競技部は県大会・東海大会では記録を残しているのですが、全国大会での活躍は一人二人です。ここ数年は全国でも3位以内に入る選手を輩出しており、総合優勝を狙うためには、リレー種目の強化が必要です。空手道部は、形の部では全国大会出場を狙えるが、組み手の部では御西の牙城を打破せねばならないので、厳しい戦いが続きます。剣道部も県内ではベスト4に常に残る実力校ですが、全国の声が聞こえないのが残念です。また、県内の強豪校・古豪校と言われる競技が、野球部とサッカー部・ラグビー部・吹奏楽部があります。やとと復活の兆しが見えてきたように思えます。野球部は監督が替わり、コーチ陣が若返り、合宿所も野球場周辺もきれいに整備が行き届き、挨拶・清掃など、基本的な生活習慣が改善され、その部分が野球になって現れてきました。来年には朗報が聞けそうです。サッカー部も統合後、全国総体には一度出たものの、正月の選手権大会には残念ながら出場しておりません。指揮官も替わり若い指揮官が、どこまで選手的心を掌握できるか、それによつては「正月を国立で」の夢が実現できそうです。ラグビー部は3年ほど他校に全国大会の席を譲っていました。今年からまた代表校という定席に座つて、花園での活躍が期待できるようになりました。吹奏楽部は、3人の優秀な卒業生指導者の支援によつて、復活の兆しが見

部活動報告

えてきました。部員の急激な減少を食い止めれば、普門館への道が開かれるものと期待しています。
上記の部活動以外では、チアリーダー部が全国大会の常連校となりました。また、自転車競技部が復活の兆しを見せている。文化部では、美術部が2年連続新潟県の佐渡島に渡って、「版画の甲子園」に出場し、写真部は個々に素晴らしい作品を制作し、県高校写真コンクールで優秀賞を得ている。演劇部は部員も増えて



陸上競技部

- 静岡県高校総体**
5月25日・26日・27日
エコパスタジアムにて
男子100m 平湯凌也(2年) 11秒31 準決勝敗退
男子400m 白川龍之介(2年) 49秒57 7位
男子105mH 池田悠斗(3年) 15秒68 8位
男子4×100mR 42秒47 6位
土屋祐輝(2年) / 小林星(1年)
白川龍之介(2年) / 平湯凌也(2年)
男子4×400mR 3分20秒92 6位
平湯凌也(2年) / 宮田洋希(3年)
白須悠雅(1年) / 白川龍之介(2年)
男子走高跳 池田悠斗(3年) 1m93cm 2位
男子走高跳 渡邊和輝(3年) 1m80cm 8位
男子走幅跳 土屋祐輝(2年) 6m88cm 2位
男子三段跳 半田憲哉(3年) 14m1cm 4位
女子100m 高山真里奈(3年)

県高校演劇コンクールで評価の高い舞台を作っている。茶華道部は男子が入部して、建学祭でお茶を点て生け花をいけて、周囲を嘩然とさせました。弓道部は卒業生の協力を得て、基礎からの徹底をはかっているのでも、間もなく結果が出てくると思います。体育館種目のバレーとバスケットは復活までは、しばらく時間がかかりそうですが、若い指導者の情熱を信じていきたいと思います。

- 12秒00 1位
女子200m 高山真里奈(3年) 25秒68 2位
女子400mH 石野鼓春(3年) 68秒49 6位
女子4×400mR 3分57秒10 4位
石野鼓春(3年) / 豊田梓(3年)
高山真里奈(3年) / 岡村春香(2年)
女子七種競技 豊田梓(3年) 4831点 1位
東海高校総体
6月15日・16日・17日
岐阜メモリアルセンター長良川競技場にて
男子4×100mR 43秒02 予選敗退
小林星(1年) / 白川龍之介(2年)
平湯凌也(2年) / 大勝裕由(2年)
男子4×400mR 3分19秒22 予選敗退
大勝裕由(2年) / 宮田洋希(3年)
白須悠雅(1年) / 白川龍之介(2年)
男子走高跳 池田悠斗(3年) 1m85cm 14位
男子走幅跳 土屋祐輝(2年) 6m80cm 10位
男子三段跳 半田憲哉(3年) 14m7cm 13位
女子100m 高山真里奈(3年) 12秒06 1位
女子七種競技 豊田梓(3年) 4817点 1位
女子4×400mR 3分53秒83 3位
石野鼓春(3年) / 豊田梓(3年)
高山真里奈(3年) / 岡村春香(2年)
全国高校総体
7月29日から8月2日

東京電力ビックスワンにて
女子七種競技 豊田梓(3年) 4・874点 3位

柔道部



静岡県高校総体

- 5月26日
静岡県武道館にて
団体男子 県ベスト8
遠田扶巳也(3年) / 神寄雄太(3年)
中村昂弘(3年) / 矢萩大貴(2年)
室家怜央(2年) / 岡村康平(1年)
伊藤愛(3年) / 田中茉衣(2年)
遠田真子(1年)
5月19日
静岡県武道館にて
100kg級 中村昂弘(3年) 3位
210kg級 馬場あゆ美(3年) 優勝
70kg級 遠田真子(1年) 2位
78kg級 伊藤愛(3年) 2位

自転車競技部



全国高校総体

- 52kg級 馬場あゆ美(3年)
78kg級 伊藤愛(3年)

静岡県高校総体
5月12日・13日
静岡県競輪場にて
・4KM速度競技 稲森健太(3年) 3位
・ポイントレース 稲森健太(3年) 3位
・スプリント 高橋大和(3年) 5位
5月27日
日本サイクルスポーツセンターにて
男子ロードレース 高橋大和(3年) 8位
男子ロードレース 坪井和沙(3年) 9位
女子ロードレース 大村麻菜美(2年) 3位

東海高校総体

- 6月15日・16日
岐阜競輪場にて
・4KM速度競技 稲森健太(3年) 5位
・スプリント 高橋大和(3年) 7位
・500mタイムトライアル
大村麻菜美(2年) 10位
6月27日
本曾三川公園長良川サイビスセンターにて
女子ロードレース 大村麻菜美(2年) 8位

全国高校総体

- 7月30日から8月1日
弥彦競輪場にて
・稲森健太(3年) 予選敗退
空手部



静岡県高校総体

- 静岡県武道館にて
男子団体組手 駒木根正人(3年) / 高橋秀平(3年)
清澤諒一(3年) / 鄭龍徹(3年)
久保田倭(2年) / 渡辺歩夢(2年)
大岩晃巳(2年)
静岡県武道館にて
男子個人組手 駒木根正人(3年)
1回戦敗退
男子個人組手 高橋秀平(3年)
2回戦敗退

男子個人組手 渡辺歩夢(2年) 2回戦敗退
男子個人組手 久保田倭(2年) 1回戦敗退
男子個人組手 大岩晃巳(2年) 1次予選敗退
男子個人組手 大岩晃巳(2年) 1次予選敗退
山下景秀(1年)
1次予選敗退
女子個人組手 橋村さくら(2年) 2回戦敗退
女子個人組手 鈴木美晴(2年) 2回戦敗退
女子個人組手 鈴木美晴(2年) 1次予選敗退
女子個人組手 稲葉美波(1年) 1次予選敗退
女子個人組手 丸岡くるみ(1年) 1次予選敗退
女子個人組手 坂下くるみ(1年) 1次予選敗退

剣道部

- 静岡県高校総体**
5月22日・23日
静岡県武道館にて
個人戦 森捷馬(1年) 6位
男子団体 予選リーグ1位
決勝トーナメント1回戦敗退
飯田誠弥(3年) / 永川稜(3年)
深見一貴(2年) / 村川恰太郎(2年)
森捷馬(1年)
東海高校総体
6月16日
関市総合体育館にて
個人戦 森捷馬(1年) 1回戦敗退
男子サッカー部



静岡県高校総体

- 5月13日
常葉グリーンフィールドにて
・2回戦 対常葉橋 本校1対6常葉橋 2回戦敗退

●女子サッカー部



本校35対17関商工
決勝 6月16日・17日
関グリーンフィールドにて
本校14対61西陵 準優勝

●男子ソフトテニス部
静岡県高校総体

草薙総合運動場にて
5月26日
男子団体 本校0対3富士宮北高校
1回戦敗退

酒井周平(3年)／是永僚太(3年)
柴裕介(3年)／前田慎(3年)
望月誠大(2年)／中塚俊樹(2年)
山本祐輔(2年)／行徳智仁(1年)
女子ソフトテニス部
静岡県高校総体
草薙総合運動場にて
5月26日

卓球部
静岡県高校総体
5月20日
静岡市中央体育館にて
学校対抗 対浜北西 1回戦敗退
梅原功太郎(3年)／大石翔平(3年)
濱口泰孝(3年)／竹下翔太郎(3年)
海野晃司(2年)／菊田知寿(2年)
佐藤将大(2年)

●チアリーダー部



全国高等学校ダンスドリル選手権大会
2012 東海大会
6月9日
名古屋枇杷島スポーツセンター
ソングリーダー 1位
ショートフラッグ 1位

静岡県応援団フェスティバル

事務職員 時々 応援団顧問

逆井 洋人

「T・O・K・A・I!!」本校
応援団の声援が、静岡グランシッ
プに響き渡ったのは、六月十七日
という初夏にしてはとても暑い日
でした。第一回静岡県高等学校
応援団フェスティバルに参加が決
したのは四月初旬、本校は正式な
部として応援団がない為、委員会
として活動していた「応援委員会」
の生徒達に白羽の矢が立ちまし
た。

しかし、本番まで日数もなく、
団員全員が他の部活動に所属して
いる為、練習時間がなく、活動場
所や指導者もなしという何とも不
安な状況でスタート。その後、活
動場所として今年四月に同じ敷地
内に移転してきた付属幼稚園のグ
ラウンドを貸して頂き、ボラン
ティアの指導者にも来て頂く中
で、団員達は日に日に上達し、息
の合った見事な応援が出来るよう
になりました。やがて、弁当を「早
弁」し、昼休みさえも活動をする
ようになり、一つの「委員会」の
大きな音が出る練習は、いつしか
校内で一番の注目のようになってい
ました。
後日、テレビ等のメディアで何

回も特集された為、ご存知の方も
いらつしやると思いますが、当日
は県内十三校が参加し、会場への
入場制限が発生する大盛況の中、
我が応援団は、先輩達が築き上げ
てきた伝統を引き継ぎ、他校に負
けない、素晴らしい演舞を披露し
てくれました。
同窓生の皆様、来年、夏の高校
野球大会はぜひ球場に足を運び、
野球部への応援と共に、彼らの
応援する姿を応援して下さいませ
うお願いいたします。



応援団団長 鈴木 翔

私達応援団は、昨年まで、壮行
会・野球応援のみの活動でした。
しかし、今年から、応援団の為の
大会が開かれると聞き、例年より
練習日を増やしました。翔洋高校
は委員会として活動していて、團
員全員が部活動に所属している
為、部活の関係で練習に参加でき
ない者もいるなど、沢山の壁が立
ちはだかりました。しかし、皆、
短い時間の中で集中して練習し、

第一回応援団フェスティバルに参
加することが出来ました。フェス
ティバルでは順位はつきませんで
したが、自分達の応援が一番良か
ったのではないかと思います。そ
して、この応援団フェスティバル
に参加したことで、沢山の人達に
応援団のことを知ってもらおうこと
が出来ました。行事も昨年よりも
四つ増え、とても良い経験をさせ
ていただきました。私は、団員全
員に感謝の気持ちで一杯です。来
年もフェスティバルが開かれるこ
とが決まっているので、団員達に
は今年以上に頑張ってもらいたい
と思います。



部活動紹介

翔ろ！輝け！翔洋撫子

佐々木 あすか

私たち、女子サッカー部は今年で創部七年目になります。全国大会出場という大きな目標を掲げ、日々練習に励んでいます。ここ数年、県ベスト8という結果が続いていますが、県ベスト4や全国大会への道は着実に近づいて来つつあると感じます。ベスト4をかけた戦いは例年大差で負けていました。しかし、



昨年は延長でも決着がつかず、PK戦までもつれ込む展開となりました。惜しくもPKで負けてしまいましたが、過去最高の内容の大会となりました。また、レディースカップという毎年七月末に行われる大会では昨年と今年優勝し、二連覇という結果を残すことができました。そして、現在も初のベスト4、東海大会、全国大会を目指し、連日、仲間と共に汗を流しています。

また、今年はサッカー雑誌や新聞にも翔洋女子サッカー部の記事を掲載していただきました。私たち三年生が引退すると部員は十一人に届かなくなりま

す。だから、メディアに掲載していただくことにより、多くの新入部員を迎え、目標達成に一歩近づけることができました。いな、と期待しています。

スイーツコンテスト

「第一回サークルKサンクス高校生スイーツコンテスト」で本校二年生、総合学習家庭科選択メンバーの鈴木美晴さん・小澤

英里子さん・杉山真梨さんが考案した「ずいおかティラミス(抹茶とみかんのティラミス)」がグランプリを受賞し、十月九日(火)より静岡県を含む東海四県のサークルKサンクス(約二〇〇〇店舗)にて発売されました。発売日当日は本校近くのサークルKサンクス清水折戸店にて、生徒が試食販売のお手伝いをさせていただきました。店内の棚に商品がディスプレイされている光景はとても感動的でした。緊張と不安のなか一般の方々、本校保護者、教職員など多くの方々にご来店いただき感謝しております。お陰様で当日はこの店舗で六二〇個販売され、「抹茶の風味とみかんの爽やかな味が絶妙」とご好評いただきました。十月二十日、二十一日に行われた建

学祭でも販売し、たくさんの方々にご賞味いただきました。ありがとうございました。



進路状況

本校の進路指導は東海大学学園の一貫教育システムを活かし、東海大学への推薦入学80%以上を目指すとともに、国立大学や私立他大学への進学、留学など、生徒一人ひとりの希望に合わせた進路指導とサポートを行なっています。

二〇一一年度卒業生の進路状況は大学進学84.3%(東海大学66.2%)、就職(24%)、専門学校(10.2%)、その他(31%)でした。

◆東海大学 194名(付属推薦)

()内の数字は人数

- 〈東海大学〉
- 文学部(37)、観光学部(10)、政治経済学部(12)、総合経営学部(1)、法学部(7)、教養学部(4)、国際文化学部(4)、情報理工学部(2)、情報通信学部(9)、工学部(27)、海洋学部(25)、農学部(2)、体育学部(10)、健康科学部(5)

〈東海大学短期大学部(静岡)〉(35)

〈ハイ東海インターナショナルカレッジ〉(4)

◆他大学 53名

()内の数字は人数

- 静岡大学、静岡県立大学、順天堂大学(2)、専修大学、日本大学(2)、国士館大学(2)、拓殖大学、東京農業大学、獨協大学、洗足学園音楽大学、立正大学、東洋学園大学、杉野服飾大学、東京福祉大学、東邦大学、東海大学(一般人試)、神奈川工科大学、産業能率大学、杏林大学、桐蔭横浜大学、山梨学院大学、帝京科学大学、常葉学園大学、静岡福祉大学(2)、浜松大学(3)、聖隷クリストファー大学(2)、愛知学院大学(2)、中京大学、愛知

◆専門学校 30名

()内の数字は人数

- 東京ビジネスアーツ専門学校、日本工学院専門学校、中央理容美容専門学校、東京モード学園、音響芸術専門学校、東京医療秘書福祉専門学校、総合学園ヒューマンアカデミーフィッシングカレッジ、白寿医療学院、学校法人鈴木学園(2)、タカヤマアドバンスビューティ専門学校、川口調理師専門学校、東海リハビリテーション専門学校(2)、大原法律公務員専門学校(2)、大原簿記情報医療専門学校、静岡工科大学自動車学校、静岡県理容美容専門学校、静岡インターナショナル・エア・リゾート専門学校、静岡医療学園専門学校、ルネサンス・ペット・アカデミー、東海調理製菓専門学校(2)、トヨタ名古屋自動車学校、近畿測量専門学校、グラムール美容専門学校、医療法人河崎会看護専門学校、辻製菓専門学校、辻調理師専門学校

◆就職 7名

- 日本ナレーション演技研究所、静岡電装(株)、㈱アイテック、㈱松島電気商会、㈱トップ印刷、静岡県警察本部、自営業手伝い

◆その他 9名

- 進学準備(8名) 未定(1名)

学校行事

四月
新入生オリエンテーション



高校・中等部合同入学式
学園基礎学力定着度試験
防災訓練①
PTA総会

五月

建学の地美化運動
生徒総会
金環日食観測会



前期中間試験
付属推薦「小論文」試験(三年)
演劇教室

六月

教育実習
公開授業①
薬学講座
教養講座(三年)



湘南校舎見学(二年)
沖縄研修旅行(二年)
校外研修(遠足)(三年)

七月

運動部壮行会



前期末試験
高校野球応援
特進山中湖学習合宿



学オリ夏季セミナー(婦忍)

八月

学オリスポーツ大会(湘南)
翔洋高校オープンキャンパス

九月

防災訓練②
スポーツ大会



前期末業式

十月
公開授業②
体育祭(草薙競技場)
PTA校内環境整備活動
建学祭



建学記念式典
弁論大会
六六・六km踏破

十一月

東海大学付属推薦合格者集会(三年)
生徒会選挙
吹奏楽定期演奏会(清水テルサ)
学園高大連携総合試験(三年)
後期中間試験
特進ハワイ語学研修(二年)



十一月
バンドフェスティバル
ヨーロッパ研修旅行

一月
大学入試センター試験
実力試験(一・二年)
卒業試験(三年)

二月

高校入学試験
後期末試験(一・二年)
三送会

三月

同窓会クラブ表彰・入会式
卒業式



修了式・離任式

ラグビー部4年ぶりV! 花園へ



第92回全国高校ラグビー大会決勝が11月18日、県営草薙球場で行われ、連覇を狙った浜松工を17-15で下し、4年ぶり9度目の優勝を飾りました。

第81回大会から第88回大会まで、8年連続で県制覇をし、全国へ駒を進めていましたが近年は3年間県予選で敗退し、全国の舞台から遠ざかっていました。今年には新人戦、総体と合わせて県3冠も達成しました。

全国大会は12月27日、東大阪市の花園ラグビー場で開催されます。応援よろしくお願います。



恩師のたより

思い出と私の宝物

天津 弘

平成十五年に定年退職して早や十年になろうとしています。

昭和三十八年に東海大学文学部史学科を卒業、四月東海大学湘南校舎教務課に勤めた。昭和四十年四月、第一高校の社会科担当として転勤を命じられました。当時の一高は、鉄骨建の一号館と二号館の半分と体育館。ほかは白アリに食われたような三棟の木造校舎と狭い運動場がありました。

体育の授業などは全クラス使えないため、残りのクラスはグラウンドの草取りと石ころ拾いなどの作業が多く、それでも不平不満も言わず明るい楽しい生徒達でした。

八月一日、高校野球の決勝戦、相手は名門



静岡高校。得点は三対三で延長戦に入る。バックネット裏で先代総長松前重義先生も観戦されていました。十回裏一高は一死・三塁、バツターは四番強打者内田。見事スクイズが決まり、四対三でさよなら勝ち、スタンドは五色のテープと紙吹雪が舞あがり、涙と感動の教員生活のスタートでした。

昭和四十七年工業高校へ転勤の夏、またも決勝戦へ。相手は強豪浜松商業、超満員の島田球場でした。私は優勝後の準備のため校長室でテレビ応援でした。二点の劣勢でしたが六回大逆転。結局五対二で優勝。事務所の電話、父兄、OBなどとの対応。優勝報告会の準備などで、大混乱したことが思い浮かびます。

昭和六十二年一高に再転勤すると、十二月ラグビー部が優勝して花園へ、翌一月サッカー部が全国準優勝を果し、転勤した年には何かがおこり楽しい思い出として残っております。

平成十一年三月に、第一高校と工業高校が統合してすばらしい環境で東海大学付属翔洋高校としてスタートしました。四月には一年十四クラス、二年十七クラス、三年十五クラス、全体四十六クラス。当時のPTA会員名簿によると、教職員百四十八名、生徒数千五百九十三名で大変賑やかな高校で出発したことを記憶しています。

平成十四年四月、二年一組最後の担任を持たせてもらいましたが、卒業させることなく平成十五年三月、四十年の教員生活を終えました。その間の心残りは、校務の関係で担任として卒業生を送り出したのが四回と大変少なかったことです。

しかし私には三つの宝が残りました。

①在職中三十七年間ソフトテニス部の顧問を勤めさせていただき、部員約四百五十名のOBは宝物でした。五回の県団体優勝個人戦十四回のインターハイ出場と頑張ってくれたこと。また私の退職時、大会に出て喜んでOB、負けて悔しい思いをした者など百数十名が県内外からホテルサンルートに

集まり楽しく会をしたこと。

②昭和四十四年の卒業生はすでに還暦が過ぎております。同期で店主「江戸駒」で毎年同級会を行っています。その期は学年全員十二名の女子が一組でした。会を開くとき、女子（おばさん）も遠方から参加してくれ、二十数人が集まります。漁師は魚を、酒屋は酒を、店主は旨い料理を作りいつも至福の時を過します。

③平成七年、一高の後援会長をされていた高橋光秋さんを中心に、時の卒業生で「逍遙会」を作り（のちの翔洋高校とは全く関係なし）当時の校長有賀敏彦先生を囲み、旅行しながら懇談する会が発足したそうです。私が退職のとき、厳しい面接？を経てその会へ仲間入りさせていただきました。約二十数人の旅で、ある時は桃の花の下で、ある時は温泉場の演壇でのカラオケなどの楽しい会です。二〇一二年は六月山梨県立美術館と芸術の森の旅でした。（写真はその時のものです。）（昨年は大勢で駿府匠宿の見学）

このように退職後も沢山のOB、卒業生、保護者の方とお付き合いをいただいていたことが私の宝です。

ところで数年前から新聞を静岡新聞に変更しました。今は朝早くから新聞を開き、翔洋に関する記事、野球、サッカー、ラグビーなどのスポーツ欄、また先月は県高スイーツコンテスト大賞など明るい楽しい内容を探して読んでいます。

今年の夏は、付属から久しぶりに山梨甲府高校が甲子園へ出場したので、テレビ観戦をしていました。勝つと校歌のメロディを懐しく聞きました。

・アジアの東尽きるところ（一高校歌）
・寄る潮に鍛えられ・・・（工業校歌）
是非近い将来、翔洋高校の校歌が全国各地に轟き渡ることを祈願しております。

卒業生のたより

空気を読む力

東海大学付属第一高等学校1991年卒業
藤田圭亮（株式会社なすび 代表取締役）

少子高齢化、消費増税、円高、外交問題、株価の低迷……非常に悔しいですが、日本が良い方向に向かう要素を見つめるのは容易ではありません。これから高校を卒業し、大学あるいは専門学校に行き、その後、社会に出ていく後輩たちには、私たちが社会に出た時とは比べ物にならない厳しい現実が待っているように思えます。現在、中小企業であっても日本国内の経済活動に限界を感じ、東アジアを中心に進出している企業が多く見受けられるようになりました。このような経済情勢の中、愛すべき我が母校の後輩たちが、これから生き残っていくために必要とする資質とは何であるのでしょうか？

東海大学付属小学校を卒業し、清水の公立中学に進み、また東海一高に戻ってきたのが1989年のことでした。入学と同時に、全くの未経験でありながら空手道部にも入部させていただきました。

当時はインターハイの常連校であり、東海大一高か御殿場西かという時代でありました。多くの先輩たちが高校卒業後も東海大学をはじめ様々な空手道の名門大学で大活躍しており、そんな先輩にあこがれを抱き、必死にやってきた空手道で学び得たもの……それは「空気を読む力」であると私は思います。厳しい上下関係や稽古、その中の先輩への気遣い、後輩への気配りなど、間違えなく社会に出てから経済活動をしていく上で一番必要である「社会性」というものを、この3年間で学ばせていただいた気がいたします。言って



いることはあつて、理屈も確かに理になつてゐる。しかしながら、それを言う「タイミング」「場所」「相手」「言い方」を間違えてしまうと、そこには「人と人との繋がり」は生まれません。まだまだ勉強中ではありますが、3年間の高校生活を通じ、学ばせていただいたことは「英語」「日本史」「数学」ではなく、明らかに「社会性」であると思つております。

今後、日本だけでなく世界を視野に、グローバルな感覚が求められる時代だからこそ、人と人との繋がりをつかり生み出す「空気を読む力」というものを、部活動を通じて習得していただきたく思います。

維持費協力者一覽

平成23年12月
平成24年11月

- 【一高】
- 第1期(昭和27年) 天野 信明
 - 第2期(昭和28年) 渡辺 一雄
 - 第3期(昭和29年) 望月 章次
 - 第4期(昭和30年) 大澤 泉
 - 第5期(昭和31年) 水上一 夫
 - 第6期(昭和32年) 勝山 敦弘
 - 第7期(昭和33年) 栗山 潔
 - 第8期(昭和34年) 山梨 公良
 - 第9期(昭和35年) 稲童丸 孝
 - 第10期(昭和36年) 高田 昌矩
 - 第11期(昭和37年) 松本 純一
 - 第12期(昭和38年) 林 芳久仁
 - 第13期(昭和39年) 加藤 明男
 - 第14期(昭和40年) 中村 康雅
 - 第15期(昭和41年) 野々垣 文之
 - 第16期(昭和42年) 大房 正治
 - 第17期(昭和43年) 谷津(近藤)京子
 - 第18期(昭和44年) 杉山 和義
 - 第19期(昭和45年) 萩田 忠則
 - 第20期(昭和46年) 羽根田 五佐男
 - 第21期(昭和47年) 伏見 順策
 - 第22期(昭和48年) 山崎 健雄
 - 第23期(昭和49年) 市川 幹夫
 - 第24期(昭和50年) 望月 敏正
 - 第25期(昭和51年) 井出 敏雄
 - 第26期(昭和52年) 一條 裕邦
 - 第27期(昭和53年) 半田 昇
 - 第28期(昭和54年) 水口 大助
 - 第29期(昭和55年) 望月 章次
 - 第30期(昭和56年) 正木(高野)靖子
 - 第31期(昭和57年) 西川 泰彦
 - 第32期(昭和58年) 望月 正平
 - 第33期(昭和59年) 八木 一臣
 - 第34期(昭和60年) 鈴木(上斗米)由美
 - 第35期(昭和61年) 深澤 恭徳
 - 第36期(昭和62年) 吉武 仁
 - 第37期(昭和63年) 小野田(深澤)裕氣子
 - 第38期(昭和64年) 堀場 至
 - 第39期(昭和65年) 坪井 邦俊
 - 第40期(昭和66年) 寺田 政敏
 - 第41期(昭和67年) 畑 啓吾
 - 第42期(昭和68年) 本橋 勝朗
 - 第43期(昭和69年) 望月 照巨
 - 第44期(昭和70年) 市川 幹夫
- 【翔洋高】
- 第1期(平成12年) 鈴木 啓太
 - 第2期(平成13年) 山崎 真哉
 - 第3期(平成14年) 今野 清
 - 第4期(平成15年) 宮本 威信
 - 第5期(平成16年) 西野 隆一
 - 第6期(平成17年) 小林 一夫
 - 第7期(平成18年) 忍 賀 仁
 - 第8期(平成19年) 山田 芳弘
 - 第9期(平成20年) 山田 芳平
 - 第10期(平成21年) 松浦 祥彦
 - 第11期(平成22年) 福井 忠己
 - 第12期(平成23年) 高橋 尚己
 - 第13期(平成24年) 高田 正吉
 - 第14期(平成25年) 遠藤(志田)薫
 - 第15期(平成26年) 酒井 雅敏
 - 第16期(平成27年) 古本 博巳
 - 第17期(平成28年) 久保田 正男
 - 第18期(平成29年) 伊藤 達郎
 - 第19期(平成30年) 齋藤 慎生
 - 第20期(平成31年) 大 中 宜秀
 - 第21期(平成32年) 宮本 貴喜
 - 第22期(平成33年) 安 本 信太郎
 - 第23期(平成34年) 望月 麻也子
 - 第24期(平成35年) 中村 直斗
 - 第25期(平成36年) 出 倉 昌宏
 - 第26期(平成37年) 竹下 昌輝
 - 第27期(平成38年) 薩川 祐慎
 - 第28期(平成39年) 小澤 卓哉
 - 第29期(平成40年) 相川 卓哉
 - 第30期(平成41年) 青島 佑樹
 - 第31期(平成42年) 岩瀬 弘明
 - 第32期(平成43年) 高橋 美帆
 - 第33期(平成44年) 増田 愛子
 - 第34期(平成45年) 岩瀬 陽平
 - 第35期(平成46年) 黒田 洋央
 - 第36期(平成47年) 平野 恒生
 - 第37期(平成48年) 宮本 貴喜
 - 第38期(平成49年) 安 本 信太郎
 - 第39期(平成50年) 望月 麻也子
 - 第40期(平成51年) 中村 直斗
 - 第41期(平成52年) 出 倉 昌宏
 - 第42期(平成53年) 竹下 昌輝
 - 第43期(平成54年) 薩川 祐慎
 - 第44期(平成55年) 小澤 卓哉
 - 第45期(平成56年) 相川 卓哉
 - 第46期(平成57年) 青島 佑樹
 - 第47期(平成58年) 岩瀬 弘明
 - 第48期(平成59年) 高橋 美帆
 - 第49期(平成60年) 増田 愛子
 - 第50期(平成61年) 岩瀬 陽平
 - 第51期(平成62年) 黒田 洋央
 - 第52期(平成63年) 平野 恒生
 - 第53期(平成64年) 宮本 貴喜
 - 第54期(平成65年) 安 本 信太郎
 - 第55期(平成66年) 望月 麻也子
 - 第56期(平成67年) 中村 直斗
 - 第57期(平成68年) 出 倉 昌宏
 - 第58期(平成69年) 竹下 昌輝
 - 第59期(平成70年) 薩川 祐慎
 - 第60期(平成71年) 小澤 卓哉
 - 第61期(平成72年) 相川 卓哉
 - 第62期(平成73年) 青島 佑樹
 - 第63期(平成74年) 岩瀬 弘明
 - 第64期(平成75年) 高橋 美帆
 - 第65期(平成76年) 増田 愛子
 - 第66期(平成77年) 岩瀬 陽平
 - 第67期(平成78年) 黒田 洋央
 - 第68期(平成79年) 平野 恒生
 - 第69期(平成80年) 宮本 貴喜
 - 第70期(平成81年) 安 本 信太郎
 - 第71期(平成82年) 望月 麻也子
 - 第72期(平成83年) 中村 直斗
 - 第73期(平成84年) 出 倉 昌宏
 - 第74期(平成85年) 竹下 昌輝
 - 第75期(平成86年) 薩川 祐慎
 - 第76期(平成87年) 小澤 卓哉
 - 第77期(平成88年) 相川 卓哉
 - 第78期(平成89年) 青島 佑樹
 - 第79期(平成90年) 岩瀬 弘明
 - 第80期(平成91年) 高橋 美帆
 - 第81期(平成92年) 増田 愛子
 - 第82期(平成93年) 岩瀬 陽平
 - 第83期(平成94年) 黒田 洋央
 - 第84期(平成95年) 平野 恒生
 - 第85期(平成96年) 宮本 貴喜
 - 第86期(平成97年) 安 本 信太郎
 - 第87期(平成98年) 望月 麻也子
 - 第88期(平成99年) 中村 直斗
 - 第89期(平成100年) 出 倉 昌宏
 - 第90期(平成101年) 竹下 昌輝
 - 第91期(平成102年) 薩川 祐慎
 - 第92期(平成103年) 小澤 卓哉
 - 第93期(平成104年) 相川 卓哉
 - 第94期(平成105年) 青島 佑樹
 - 第95期(平成106年) 岩瀬 弘明
 - 第96期(平成107年) 高橋 美帆
 - 第97期(平成108年) 増田 愛子
 - 第98期(平成109年) 岩瀬 陽平
 - 第99期(平成110年) 黒田 洋央
 - 第100期(平成111年) 平野 恒生
 - 第101期(平成112年) 宮本 貴喜
 - 第102期(平成113年) 安 本 信太郎
 - 第103期(平成114年) 望月 麻也子
 - 第104期(平成115年) 中村 直斗
 - 第105期(平成116年) 出 倉 昌宏
 - 第106期(平成117年) 竹下 昌輝
 - 第107期(平成118年) 薩川 祐慎
 - 第108期(平成119年) 小澤 卓哉
 - 第109期(平成120年) 相川 卓哉
 - 第110期(平成121年) 青島 佑樹
 - 第111期(平成122年) 岩瀬 弘明
 - 第112期(平成123年) 高橋 美帆
 - 第113期(平成124年) 増田 愛子
 - 第114期(平成125年) 岩瀬 陽平
 - 第115期(平成126年) 黒田 洋央
 - 第116期(平成127年) 平野 恒生
 - 第117期(平成128年) 宮本 貴喜
 - 第118期(平成129年) 安 本 信太郎
 - 第119期(平成130年) 望月 麻也子
 - 第120期(平成131年) 中村 直斗
 - 第121期(平成132年) 出 倉 昌宏
 - 第122期(平成133年) 竹下 昌輝
 - 第123期(平成134年) 薩川 祐慎
 - 第124期(平成135年) 小澤 卓哉
 - 第125期(平成136年) 相川 卓哉
 - 第126期(平成137年) 青島 佑樹
 - 第127期(平成138年) 岩瀬 弘明
 - 第128期(平成139年) 高橋 美帆
 - 第129期(平成140年) 増田 愛子
 - 第130期(平成141年) 岩瀬 陽平
 - 第131期(平成142年) 黒田 洋央
 - 第132期(平成143年) 平野 恒生
 - 第133期(平成144年) 宮本 貴喜
 - 第134期(平成145年) 安 本 信太郎
 - 第135期(平成146年) 望月 麻也子
 - 第136期(平成147年) 中村 直斗
 - 第137期(平成148年) 出 倉 昌宏
 - 第138期(平成149年) 竹下 昌輝
 - 第139期(平成150年) 薩川 祐慎
 - 第140期(平成151年) 小澤 卓哉
 - 第141期(平成152年) 相川 卓哉
 - 第142期(平成153年) 青島 佑樹
 - 第143期(平成154年) 岩瀬 弘明
 - 第144期(平成155年) 高橋 美帆
 - 第145期(平成156年) 増田 愛子
 - 第146期(平成157年) 岩瀬 陽平
 - 第147期(平成158年) 黒田 洋央
 - 第148期(平成159年) 平野 恒生
 - 第149期(平成160年) 宮本 貴喜
 - 第150期(平成161年) 安 本 信太郎
 - 第151期(平成162年) 望月 麻也子
 - 第152期(平成163年) 中村 直斗
 - 第153期(平成164年) 出 倉 昌宏
 - 第154期(平成165年) 竹下 昌輝
 - 第155期(平成166年) 薩川 祐慎
 - 第156期(平成167年) 小澤 卓哉
 - 第157期(平成168年) 相川 卓哉
 - 第158期(平成169年) 青島 佑樹
 - 第159期(平成170年) 岩瀬 弘明
 - 第160期(平成171年) 高橋 美帆
 - 第161期(平成172年) 増田 愛子
 - 第162期(平成173年) 岩瀬 陽平
 - 第163期(平成174年) 黒田 洋央
 - 第164期(平成175年) 平野 恒生
 - 第165期(平成176年) 宮本 貴喜
 - 第166期(平成177年) 安 本 信太郎
 - 第167期(平成178年) 望月 麻也子
 - 第168期(平成179年) 中村 直斗
 - 第169期(平成180年) 出 倉 昌宏
 - 第170期(平成181年) 竹下 昌輝
 - 第171期(平成182年) 薩川 祐慎
 - 第172期(平成183年) 小澤 卓哉
 - 第173期(平成184年) 相川 卓哉
 - 第174期(平成185年) 青島 佑樹
 - 第175期(平成186年) 岩瀬 弘明
 - 第176期(平成187年) 高橋 美帆
 - 第177期(平成188年) 増田 愛子
 - 第178期(平成189年) 岩瀬 陽平
 - 第179期(平成190年) 黒田 洋央
 - 第180期(平成191年) 平野 恒生
 - 第181期(平成192年) 宮本 貴喜
 - 第182期(平成193年) 安 本 信太郎
 - 第183期(平成194年) 望月 麻也子
 - 第184期(平成195年) 中村 直斗
 - 第185期(平成196年) 出 倉 昌宏
 - 第186期(平成197年) 竹下 昌輝
 - 第187期(平成198年) 薩川 祐慎
 - 第188期(平成199年) 小澤 卓哉
 - 第189期(平成200年) 相川 卓哉
 - 第190期(平成201年) 青島 佑樹
 - 第191期(平成202年) 岩瀬 弘明
 - 第192期(平成203年) 高橋 美帆
 - 第193期(平成204年) 増田 愛子
 - 第194期(平成205年) 岩瀬 陽平
 - 第195期(平成206年) 黒田 洋央
 - 第196期(平成207年) 平野 恒生
 - 第197期(平成208年) 宮本 貴喜
 - 第198期(平成209年) 安 本 信太郎
 - 第199期(平成210年) 望月 麻也子
 - 第200期(平成211年) 中村 直斗
 - 第201期(平成212年) 出 倉 昌宏
 - 第202期(平成213年) 竹下 昌輝
 - 第203期(平成214年) 薩川 祐慎
 - 第204期(平成215年) 小澤 卓哉
 - 第205期(平成216年) 相川 卓哉
 - 第206期(平成217年) 青島 佑樹
 - 第207期(平成218年) 岩瀬 弘明
 - 第208期(平成219年) 高橋 美帆
 - 第209期(平成220年) 増田 愛子
 - 第210期(平成221年) 岩瀬 陽平
 - 第211期(平成222年) 黒田 洋央
 - 第212期(平成223年) 平野 恒生
 - 第213期(平成224年) 宮本 貴喜
 - 第214期(平成225年) 安 本 信太郎
 - 第215期(平成226年) 望月 麻也子
 - 第216期(平成227年) 中村 直斗
 - 第217期(平成228年) 出 倉 昌宏
 - 第218期(平成229年) 竹下 昌輝
 - 第219期(平成230年) 薩川 祐慎
 - 第220期(平成231年) 小澤 卓哉
 - 第221期(平成232年) 相川 卓哉
 - 第222期(平成233年) 青島 佑樹
 - 第223期(平成234年) 岩瀬 弘明
 - 第224期(平成235年) 高橋 美帆
 - 第225期(平成236年) 増田 愛子
 - 第226期(平成237年) 岩瀬 陽平
 - 第227期(平成238年) 黒田 洋央
 - 第228期(平成239年) 平野 恒生
 - 第229期(平成240年) 宮本 貴喜
 - 第230期(平成241年) 安 本 信太郎
 - 第231期(平成242年) 望月 麻也子
 - 第232期(平成243年) 中村 直斗
 - 第233期(平成244年) 出 倉 昌宏
 - 第234期(平成245年) 竹下 昌輝
 - 第235期(平成246年) 薩川 祐慎
 - 第236期(平成247年) 小澤 卓哉
 - 第237期(平成248年) 相川 卓哉
 - 第238期(平成249年) 青島 佑樹
 - 第239期(平成250年) 岩瀬 弘明
 - 第240期(平成251年) 高橋 美帆
 - 第241期(平成252年) 増田 愛子
 - 第242期(平成253年) 岩瀬 陽平
 - 第243期(平成254年) 黒田 洋央
 - 第244期(平成255年) 平野 恒生
 - 第245期(平成256年) 宮本 貴喜
 - 第246期(平成257年) 安 本 信太郎
 - 第247期(平成258年) 望月 麻也子
 - 第248期(平成259年) 中村 直斗
 - 第249期(平成260年) 出 倉 昌宏
 - 第250期(平成261年) 竹下 昌輝
 - 第251期(平成262年) 薩川 祐慎
 - 第252期(平成263年) 小澤 卓哉
 - 第253期(平成264年) 相川 卓哉
 - 第254期(平成265年) 青島 佑樹
 - 第255期(平成266年) 岩瀬 弘明
 - 第256期(平成267年) 高橋 美帆
 - 第257期(平成268年) 増田 愛子
 - 第258期(平成269年) 岩瀬 陽平
 - 第259期(平成270年) 黒田 洋央
 - 第260期(平成271年) 平野 恒生
 - 第261期(平成272年) 宮本 貴喜
 - 第262期(平成273年) 安 本 信太郎
 - 第263期(平成274年) 望月 麻也子
 - 第264期(平成275年) 中村 直斗
 - 第265期(平成276年) 出 倉 昌宏
 - 第266期(平成277年) 竹下 昌輝
 - 第267期(平成278年) 薩川 祐慎
 - 第268期(平成279年) 小澤 卓哉
 - 第269期(平成280年) 相川 卓哉
 - 第270期(平成281年) 青島 佑樹
 - 第271期(平成282年) 岩瀬 弘明
 - 第272期(平成283年) 高橋 美帆
 - 第273期(平成284年) 増田 愛子
 - 第274期(平成285年) 岩瀬 陽平
 - 第275期(平成286年) 黒田 洋央
 - 第276期(平成287年) 平野 恒生
 - 第277期(平成288年) 宮本 貴喜
 - 第278期(平成289年) 安 本 信太郎
 - 第279期(平成290年) 望月 麻也子
 - 第280期(平成291年) 中村 直斗
 - 第281期(平成292年) 出 倉 昌宏
 - 第282期(平成293年) 竹下 昌輝
 - 第283期(平成294年) 薩川 祐慎
 - 第284期(平成295年) 小澤 卓哉
 - 第285期(平成296年) 相川 卓哉
 - 第286期(平成297年) 青島 佑樹
 - 第287期(平成298年) 岩瀬 弘明
 - 第288期(平成299年) 高橋 美帆
 - 第289期(平成300年) 増田 愛子
 - 第290期(平成301年) 岩瀬 陽平
 - 第291期(平成302年) 黒田 洋央
 - 第292期(平成303年) 平野 恒生
 - 第293期(平成304年) 宮本 貴喜
 - 第294期(平成305年) 安 本 信太郎
 - 第295期(平成306年) 望月 麻也子
 - 第296期(平成307年) 中村 直斗
 - 第297期(平成308年) 出 倉 昌宏
 - 第298期(平成309年) 竹下 昌輝
 - 第299期(平成310年) 薩川 祐慎
 - 第300期(平成311年) 小澤 卓哉
 - 第301期(平成312年) 相川 卓哉
 - 第302期(平成313年) 青島 佑樹
 - 第303期(平成314年) 岩瀬 弘明
 - 第304期(平成315年) 高橋 美帆
 - 第305期(平成316年) 増田 愛子
 - 第306期(平成317年) 岩瀬 陽平
 - 第307期(平成318年) 黒田 洋央
 - 第308期(平成319年) 平野 恒生
 - 第309期(平成320年) 宮本 貴喜
 - 第310期(平成321年) 安 本 信太郎
 - 第311期(平成322年) 望月 麻也子
 - 第312期(平成323年) 中村 直斗
 - 第313期(平成324年) 出 倉 昌宏
 - 第314期(平成325年) 竹下 昌輝
 - 第315期(平成326年) 薩川 祐慎
 - 第316期(平成327年) 小澤 卓哉
 - 第317期(平成328年) 相川 卓哉
 - 第318期(平成329年) 青島 佑樹
 - 第319期(平成330年) 岩瀬 弘明
 - 第320期(平成331年) 高橋 美帆
 - 第321期(平成332年) 増田 愛子
 - 第322期(平成333年) 岩瀬 陽平
 - 第323期(平成334年) 黒田 洋央
 - 第324期(平成335年) 平野 恒生
 - 第325期(平成336年) 宮本 貴喜
 - 第326期(平成337年) 安 本 信太郎
 - 第327期(平成338年) 望月 麻也子
 - 第328期(平成339年) 中村 直斗
 - 第329期(平成340年) 出 倉 昌宏
 - 第330期(平成341年) 竹下 昌輝
 - 第331期(平成342年) 薩川 祐慎
 - 第332期(平成343年) 小澤 卓哉
 - 第333期(平成344年) 相川 卓哉
 - 第334期(平成345年) 青島 佑樹
 - 第335期(平成346年) 岩瀬 弘明
 - 第336期(平成347年) 高橋 美帆
 - 第337期(平成348年) 増田 愛子
 - 第338期(平成349年) 岩瀬 陽平
 - 第339期(平成350年) 黒田 洋央
 - 第340期(平成351年) 平野 恒生
 - 第341期(平成352年) 宮本 貴喜
 - 第342期(平成353年) 安 本 信太郎
 - 第343期(平成354年) 望月 麻也子
 - 第344期(平成355年) 中村 直斗
 - 第345期(平成356年) 出 倉 昌宏
 - 第346期(平成357年) 竹下 昌輝
 - 第347期(平成358年) 薩川 祐慎
 - 第348期(平成359年) 小澤 卓哉
 - 第349期(平成360年) 相川 卓哉
 - 第350期(平成361年) 青島 佑樹
 - 第351期(平成362年) 岩瀬 弘明
 - 第352期(平成363年) 高橋 美帆
 - 第353期(平成364年) 増田 愛子
 - 第354期(平成365年) 岩瀬 陽平
 - 第355期(平成366年) 黒田 洋央
 - 第356期(平成367年) 平野 恒生
 - 第357期(平成368年) 宮本 貴喜
 - 第358期(平成369年) 安 本 信太郎
 - 第359期(平成370年) 望月 麻也子
 - 第360期(平成371年) 中村 直斗
 - 第361期(平成372年) 出 倉 昌宏
 - 第362期(平成373年) 竹下 昌輝
 - 第363期(平成374年) 薩川 祐慎
 - 第364期(平成375年) 小澤 卓哉
 - 第365期(平成376年) 相川 卓哉
 - 第366期(平成377年) 青島 佑樹
 - 第367期(平成378年) 岩瀬 弘明
 - 第368期(平成379年) 高橋 美帆
 - 第369期(平成380年) 増田 愛子
 - 第370期(平成381年) 岩瀬 陽平
 - 第371期(平成382年) 黒田 洋央
 - 第372期(平成383年) 平野 恒生
 - 第373期(平成384年) 宮本 貴喜
 - 第374期(平成385年) 安 本 信太郎
 - 第375期(平成386年) 望月 麻也子
 - 第376期(平成387年) 中村 直斗
 - 第377期(平成388年) 出 倉 昌宏
 - 第378期(平成389年) 竹下 昌輝
 - 第379期(平成390年) 薩川 祐慎
 - 第380期(平成391年) 小澤 卓哉
 - 第381期(平成392年) 相川 卓哉
 - 第382期(平成393年) 青島 佑樹
 - 第383期(平成394年) 岩瀬 弘明
 - 第384期(平成395年) 高橋 美帆
 - 第385期(平成396年) 増田 愛子
 - 第386期(平成397年) 岩瀬 陽平
 - 第387期(平成398年) 黒田 洋央
 - 第388期(平成399年) 平野 恒生
 - 第389期(平成400年) 宮本 貴喜
 - 第390期(平成401年) 安 本 信太郎
 - 第391期(平成402年) 望月 麻也子
 - 第392期(平成403年) 中村 直斗
 - 第393期(平成404年) 出 倉 昌宏
 - 第394期(平成405年) 竹下 昌輝
 - 第395期(平成406年) 薩川 祐慎
 - 第396期(平成407年) 小澤 卓哉
 - 第397期(平成408年) 相川 卓哉
 - 第398期(平成409年) 青島 佑樹
 - 第399期(平成410年) 岩瀬 弘明
 - 第400期(平成411年) 高橋 美帆
 - 第401期(平成412年) 増田 愛子
 - 第402期(平成413年) 岩瀬 陽平
 - 第403期(平成414年) 黒田 洋央
 - 第404期(平成415年) 平野 恒生
 - 第405期(平成416年) 宮本 貴喜
 - 第406期(平成417年) 安 本 信太郎
 - 第407期(平成418年) 望月 麻也子
 - 第408期(平成419年) 中村 直斗
 - 第409期(平成420年) 出 倉 昌宏
 - 第410期(平成421年) 竹下 昌輝
 - 第411期(平成422年) 薩川 祐慎
 - 第412期(平成423年) 小澤 卓哉
 - 第413期(平成424年) 相川 卓哉
 - 第414期(平成425年) 青島 佑樹
 - 第415期(平成426年) 岩瀬 弘明
 - 第416期(平成427年) 高橋 美帆
 - 第417期(平成428年) 増田 愛子
 - 第418期(平成429年) 岩瀬 陽平
 - 第419期(平成430年) 黒田 洋央
 - 第420期(平成431年) 平野 恒生
 - 第421期(平成432年) 宮本 貴喜
 - 第422期(平成433年) 安 本 信太郎
 - 第423期(平成434年) 望月 麻也子
 - 第424期(平成435年) 中村 直斗
 - 第425期(平成436年) 出 倉 昌宏
 - 第426期(平成437年) 竹下 昌輝
 - 第427期(平成438年) 薩川 祐慎
 - 第428期(平成439年) 小澤 卓哉
 - 第429期(平成440年) 相川 卓哉
 - 第430期(平成441年) 青島 佑樹
 - 第431期(平成442年) 岩瀬 弘明
 - 第432期(平成443年) 高橋 美帆
 - 第433期(平成444年) 増田 愛子
 - 第434期(平成445年) 岩瀬 陽平
 - 第435期(平成446年) 黒田 洋央
 - 第436期(平成447年) 平野 恒生
 - 第437期(平成448年) 宮本 貴喜
 - 第438期(平成449年) 安 本 信太郎
 - 第439期(平成450年) 望月 麻也子
 - 第440期(平成451年) 中村 直斗
 - 第441期(平成452年) 出 倉 昌宏
 - 第442期(平成453年) 竹下 昌輝
 - 第443期(平成454年) 薩川 祐慎
 - 第444期(平成455年) 小澤 卓哉
 - 第445期(平成456年) 相川 卓哉
 - 第446期(平成457年) 青島 佑樹
 - 第447期(平成458年) 岩瀬 弘明
 - 第448期(平成459年) 高橋 美帆
 - 第449期(平成460年) 増田 愛子
 - 第450期(平成461年) 岩瀬 陽平
 - 第451期(平成462年) 黒田 洋央
 - 第452期(平成463年) 平野 恒生
 - 第453期(平成464年) 宮本 貴喜
 - 第454期(平成465年) 安 本 信太郎
 - 第455期(平成466年) 望月 麻也子
 - 第456期(平成467年) 中村 直斗
 - 第457期(平成468年) 出 倉 昌宏
 - 第458期(平成469年) 竹下 昌輝
 - 第459期(平成470年) 薩川 祐慎
 - 第460期(平成471年) 小澤 卓哉
 - 第461期(平成472年) 相川 卓哉
 - 第462期(平成473年)

同窓会報告

同窓会みこし

清水みなと祭り同窓会神輿

実行委員長 鈴木善久

八月五日第六十五回清水みなと祭り「祭りの力を日本の力に」へ東海神輿会は参加した。

昨年、被災地の復興の兆しが見えはじめた今年、東北のがんばりと元気を応援したく競演者の矢倉太鼓保存様と参加した。

同窓生百余名、会員の家族、海洋学部学生諸君も交えて当日を迎えた。出発に際して秋葉山栄松院の神事が執り行われた。

エスパルスドリーム広場、マリナーパークは祭りの観客の賑わいと大きな歓声で盛り上がり神輿は練り回った。そして矢倉太鼓の力強い樗さばきにのり、神輿の渡御は終了した。

建学の精神を御神体とした神輿は、会員の絆と親睦を深め、応援の心は、心ひとつにがんばる東北に届いたと思います。今後も母校の更なる発展と会員のご活躍とご健勝を願ひ皆様のご協力ご支援にお礼申し上げます。

連合同窓会

第三十七回東海大学高等学校連合同窓会が平成二十四年九月十四日(金)から十六日(日)の三日間にわたって行われました。十四日の有



志によるゴルフコンペは阿蘇グリーンヒルカントリークラブで開催され翔洋高校からは二名が参加しました。十五日は大学の食堂で昼食を取った後、今年四月に「付属熊本星翔高校」と校名を変更した付属第二高校の校舎を見学しました。一号館のY字校舎跡地にはJリーグ認定の人工芝のサッカー場を建設していました。その後、熊本城を見学し、総会が行われる阿蘇内牧温泉の阿蘇ホテルに向かいました。

七十九名が参加した総会は熊本星翔高校同窓会上杉幸博会長の挨拶で始まり、年間行事や会計報告がありました。また、東海大学付属仰星高校が同窓会を発足し、連合同窓会に加入する旨の報告もありました。総会後の講演会は九州東海大学前野球部監督の太田紘一先生を講師に「松前重義総長を語る」という演題で行われました。講演では東海大一高の思い出や齊藤鉄夫監督の話にも触れたので懐かしい思いで聞くことができました。

十六日はあいにくの雨でしたが阿蘇山への観光に出かけました。草千里では阿蘇火山博物館を見学しましたが阿蘇山火口の見学は雨と霧の為中止となりました。また、熊本市内は藤崎八幡宮例大祭で混んでいたため松前重義記念館も見学することができず、少し心残りの観光となりました。今回は望洋高校、浦安高校、望星高校が担当で群馬県方面で開催したいとの話がありました。

翔洋同窓会総会報告

今年は、二年に一度の総会を、六月十日に校長先生・副校長先生・教頭先生を来賓にお迎えして開催しました。

総会は、二〇二一年度の活動報告・会計報告の後、二〇二一年度の活動方針・予算案を審議し参加者全員の賛成で、議事は終了しました。総会では第十三期卒業生のクラス幹事と同窓会クラブ表彰者の報告もありました。

続いて行われた講演会は旧東海大一高の職

員であり、ミュンヘンオリンピックの男子バレーボールにおいて松平監督の右腕となり金メダル獲得に多大な貢献をした、齋藤勝元東海大学名誉教授をお招きし、「私とバレーボール」という演題で講演をしていただきました。会場には同窓生のみならず、本校バレーボール部の部員と保護者も詰めかけ熱心に聴いていました。その後、本校多目的ホールにおいて、来賓の方も加わり懇親会を大々的に開催し、親交を深めました。



東海大学付属小学校の新たなスタート

東海大学付属小学校教諭

私は翔洋高校サッカー部OBで、現在付属小学校で体育の教員として楽しく働いております。

新校舎へ移転して(翔洋高校隣)、環境面、設備面、防災面にも考慮して設計されているので、とても安全で快適、最高のスタートを切る事が出来ました。運動場には、自動のスプリンクラーがついた事で、体育の授業や各行事もスムーズに進行出来るようになりました。アリーナでも色々工夫を施して、子どもたちの笑顔が旧校舎の時よりも輝きが増しました。これからもメリハリのある教育で、感謝の気持ちや常にも忘れず、将来を背負って立つ子どもたち一人ひとりに全力で情熱を持った指導をしていきたいです。

今後とも、東海大学付属小学校をよろしくお願いします。



東海大学付属幼稚園

清水キャンパス

東海大学付属幼稚園 教諭

松下 舞翔洋高校4期

今年の4月から東海大学付属幼稚園は清水キャンパス内に新築・移転し、新園舎でのスタートとなりました。新園舎では、床に座って活動することの多い園児のために全教室にエアコンの他に床暖房も完備しており、設備的にも恵まれています。



新しい幼稚園に子ども達は「きれーい!!」と大喜び!新しい幼稚園にもあつという間に慣れ、子ども達は毎日、元気いっぱい遊んでいます。子ども達の「楽しい!」や「やってみよう」という知的好奇心に応じた遊び体験や自然との触れ合いを通して、子ども達は大きく成長しています。また、学園のスケールメリットを活かした園外保育や行事では、多くの海洋の学生さんや翔洋の生徒さんたちと触れ合う機会もあり、子ども達はお兄さん・お姉さんが大好きです。

これからも翔洋高校OBとして、翔洋の生徒たちの手もお借りして、子ども達の心に寄り添いながら楽しい毎日を過ごしていきたいです。

高橋嗣男先生

ご逝去のお知らせ



工業高校・第一高校・山形高校・付属幼稚園園長として長きに渡り、ご活躍されました高橋先生が8月21日にご逝去されました。

逝去され、清水の龍華寺においてしめやかにご葬儀が執り行われました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。